

日本の世界遺産めぐり

その九 古都奈良（文化遺産）①

古都奈良の文化財は、奈良県奈良市にある寺院などから構成される文化遺産として一九九八年十二月二日に、日本で九件目の世界遺産に登録された。①東大寺②興福寺③春日大社④元興寺⑤薬師寺⑥唐招提寺⑦平城宮跡⑧春日山原始林、八か所の文化財資産群である。この世界遺産は、以下の

※印の世界遺産登録基準を満たしたと見なされ登録がなされた。
※ある期間を通じて、またはある文化圏において、建築、技術、記念碑的芸術、都市計画、景観デザインの開発に關し人類の価値の重要な交流を示すもの。※現存するまた消滅した文化的伝統、または文明では、唯一のまたは少なくとも稀な証拠。
※人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式建築物群、技術の集積または景観の優れた例。※頭著で普遍的な意義を有する出来事、現存する伝統、思想、信仰または芸術的、文化的作品と、直接にまた明白に關連するもの。
奈良における皇室宮殿の配置と現存文化財の設



東大寺大仏殿

計は、初期アジアの首都群の建築と都市計画に關するきわだった例である。仏教寺院と神社は、ひととき優れた形で宗教の連続的な力と影響を証明する。建築遺産は、奈良が首都であった時代に開花した日本文化の唯一の証である。
①東大寺

奈良時代には中心は堂宇の大仏殿（金堂）のほか、東西二つの七重塔（推定高さ七〇メートル以上）を含む大伽藍が整備されたが、中世以降、二度の兵火で多くの建物を焼失した。現存する大仏は台座（蓮華座）などの一部に当初の部分を残すのみである。金光明天王護国寺ともいい、奈良時代（八世紀）に聖武天皇が国力をつくして建立した寺である。「奈良の大仏」として知られる盧舍那仏（るしゃなぶつ）を本尊とし、開山（初代別当）は良弁である。現別当は筒井寛昭。



大仏さん

あり、現存する大仏殿は江戸時代の十八世紀初頭（元禄時代）の再建で、創建当時の堂に比べ、間口が三分の二に縮小されている。「大仏さん」の寺として、古代から現代に至るまで広い信仰を集め、日本の文化に多大な影響を与えてきた寺院であり、聖武天皇が当時の日本の六十余か国に建立させた国分寺の中心をなす「総国分寺」と位置付けられた。 つづく

世評・時評

集団的自衛権・限定容認？

安倍総理は、日本が再び戦争をする国になることはないと言っている。言っていると同時に、

中国の台頭など緊迫する東アジア情勢を踏まえ、抑止力の向上につながることを強調した。

新政府見解で、戦後の日本の安全保障政策は大きな転換点をむかえた。百鬼夜行という言葉があるように、夜は災厄に満ちている。ドイツの思想家ベンヤミンは言った。（夜のなかを歩きとおすときに、助けになるものは橋でも翼でもなくて、友の足音だ）『ベンヤミンの生涯』橋や翼がご入り

用ならば、掛かる費用は私にお任せ下さい。財布を片手に、そうゆう友情の示し方もあるだろう。あるとしても、足音を響かせて駆けつける友情と同質ではありえない。足音で固く結ばれた友を作り、夜の街にたむろする無頼漢に「へたな手出しはできないぞ」と気づかせる、抑止力である。足音を待たないで甘んじることなく、憲法の許す範囲で、ぎりぎり、どこまで足音を聴かせる側に立てるか。自公両党の与党協議を経て、政府は集団自衛権の行使を限定的に認める、政府見解を閣議決定した。単漢字で「聲」（あしおと）と読む漢字がある、ちよつと見ると、「恐」に似ている。これで戦争参加

高橋カツさんとふるさと物語

山村 匡子

高橋カツさんには子供頃、お母さんから聞いた昔話を、多くの子供達に残したいという、長年の夢を実現させたいとの思いがあった。葵で初めてパソコンに接したカツさんは、何とかローマ字入力と変換を覚えると、早速、自分のパソコンを手に入れ、思

に出のヨーロッパ旅行の短歌を入力し始めた。福島県伊達市生まれのため、「い」と「え」の区別が苦手で、しよつちゆう変換ミスに悩まされながら、東北人の粘りと辛抱強さで、約二年で百首余りを入力、短歌集「虹影」が出来上がった。次に取り掛かったのが、ノートに書き溜めた「ふるさと」の物語り。以前自費出版を考えたが、女手一つで二人の子を育て上げたカツさんには、余生の事を考えると踏み切れなかつた。葵のパソコン教室と、カツさんのたゆまぬ努力で、約百編から選んだ二十話の入力が終り、ご長男の協力もあって、この度ようやく永年の夢、「ふるさと」の物語りが本になる。

私はこの度、その校正をお手伝いし、単なる昔話と思っていたもののが大半が、イソップと同じ寓話であることに気がついた。お金や物を大切にすることを人々を羨ましく思っている。人を羨ましく思っている。人を騙したり、からかうとロクなことではない。見た目で人を判断してはいけない。お米には不思議な力がある、等々。
子供達は年寄りや親達の昔話に耳を傾け、して良いこと悪いこと、生きるとの知恵を学び、情緒も養ったのだ。
先日、ワールドカップでの日本チーム初戦敗退の責任をとり辞任したザッケローニ監督が帰国す

葵友の会 広報コーナー

7月度行事の結果

練馬 大歌舞伎
チケット入手できず、中止となりました。

18日（金）バンバンにて、14名の参加。

8月度行事の予定

麻雀大会
20日（水）ベイブにて。今回から、希望人数により卓数を調整することになりました。また、ブリーダーの方には盾を差し上げます。

22日（金）バンバンにて。女性の方、ご参加ください。
（事務局長）

の際、見送りのサポートから石も追われるどころか「今までありがとう」の声を掛けられ感激していた。日本の若者達のサッカー場のゴミ拾いと言いい、日本人の良さは健在だ。

◆編集委員会より

「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島まで

利用者さんの
紹介コーナー

小橋 恒彦(日・水)

去年、熱中症で体調を崩しました。今は、自分のため、家族のために体調を維持するべく一生懸命やっています。家のそばの農園を借りて、野菜作りを楽しんでいます。



関野 歌子(木)

華道、茶道を趣味でやっています。旅行が大好きです。日本全国いろいろな行き先でしたが、印象に残っているのは、萩、四国です。



田中 正(水)

芝居が好きです。女子高では、男役をしています。劇団でも少しやっています。ソフトボールもやっています。活動的だったんですよ。



『落語の中の酒』続編

絹田 治夫

色と香りのついた樽酒は熱燗に、冷や酒は酔いやすいつて本当

『鯛沢』では大雪の山中にある一軒家で、熱々の玉子酒が振る舞われる。だが江戸においては、高級な酒であっても燗にするのが一般的だった。この時代、酒は樽に詰めて貯蔵されていた為、どうしても樽の香りと色がつく。これがある程度やわらげるために、燗がつけられた。『長屋の花見』で番茶を水で割ったものを酒に見立てているのは、透明な清酒を見慣れた現代人には奇異なことだが、樽酒を飲みなれた江戸っ子たちにとっては、酒はうつつすらと色がついていっているものだった。また冷や酒は酔いつ払いやすいという考えもあった。あくまでも粋を旨とする江戸っ子たちは泥酔した末に醜態を見せるのをよしとしない。そこから冷や酒は、賤しい飲み方だという固定観念が生まれ、酒はあくまでも燗で飲むという習慣ができる。酒呑み噺の代表作『らくだ』に、「冷やでもいいから一杯」という台調がでてくるが、これは飲めるものなら、なんとしても飲みみたいという、酒好き人

俳句の会「浦公英」

発云に寄せて
河角進

今年の二月末頃、同じ火曜日で、一緒に浅井明氏から、「俳句に興味をもっているある女性から、俳句をもっと知りたいと相談された。」との話が私の所に来ました。私も俳句の結社で勉強中なので一緒にやりましたよという事で、会が始まりました。女性の方が多くて十二、三名の方々が参加されています。この会のモットーとしては(一)季語を大切にする。(二)切れ字は避けて表現する。などの俳句の基礎を踏まえた上で、思いついたことを五、七、五、

代人には奇異なことだが、樽酒を飲みなれた江戸っ子たちにとっては、酒はうつつすらと色がついていっているものだった。また冷や酒は酔いつ払いやすいという考えもあった。あくまでも粋を旨とする江戸っ子たちは泥酔した末に醜態を見せるのをよしとしない。そこから冷や酒は、賤しい飲み方だという固定観念が生まれ、酒はあくまでも燗で飲むという習慣ができる。酒呑み噺の代表作『らくだ』に、「冷やでもいいから一杯」という台調がでてくるが、これは飲めるものなら、なんとしても飲みみたいという、酒好き人の中に現すことが基本と考えています。非才な私ですが皆様に失礼とは思いますが、私が一番の目的としている事は、参加する人達が自由に楽しく発言し合い、各人の意思の疎通が計れれば幸いですと考えて私なりの進め方をしていきます。未熟な私の話を皆様が熱心に聞いて下さるので、大変ありがたい事と感謝しております。なお、この会に参加される各人に、今迄、発表されたものでも、これから作られても良いから、自分の自信作を一句、名前を書いた上で、投句してもらいます。季語は、春又は夏でも構いません。と云うことで会の方々の句が出ます。

間特有の言い回しである。



この冷や酒よりも、さらに品が下った酒とされていたのが焼酎である。焼酎は江戸時代においては「中間や折助の飲むもの」とされ、江戸落語ではどれほど貧乏な長屋に住む連中でも焼酎は決して口にしていない。続く「ふわふわ亭わび助



- 信濃路に喜雨の音よき 河角進
- 深底 山添いに甘酒茶屋の 緋毛氈 幸島芳江
- 鏝広の顔の見えない 夏帽子 佐藤和梅
- 梅雨に入る黒酢酢豚の 旨い店 岸野弘子
- 夕暮れてくる茅の輪の 旅路かな 徳刈操
- 立つ人の背に老いの見ゆ 庭は初夏 松本幸子
- 襖絵の前に座すなり 京の夏 柳生昭子
- 小さき蛇身をくねらせつ 墓の裏 山田登美子
- 今もおもい出多き 藤寝椅子 山本敏子
- 夕虹や幼心に戻る時 和田輝子

私の終戦 三木 美和

昭和二十年八月十五日、私は六年暮した中国で終戦の詔勅を聞いた。十七才だった。大都市奉天でも直ぐ無法地帯になる。ソ連軍が来るので、三日後には泣くまもなく頭を丸坊主にして、兄の学生服を着た。騒々しい外を見ると、シベリアの囚人部隊が列をなして進駐してきた。バズーカ砲を肩から背負い、赤鬼ながら髯面の大男だ。食料の羊を沢山連れていた。夜は戒厳令が敷かれ、銃声が絶え間なく響く中、少ない男性の夜警団が婦女子を守った。父は工場へ出向き不在だったので、夜は母、姉、弟と町会長宅に泊めて頂いた。十日ほどして我が家をソ連将校が接収、同居することになる。各室鍵があるので身を密めていたが、「我々はウクライナだから安心してなさい。」と家族の写真を見せたり台所にぶら下げた牛の肉も肉を食べるようにと親切だった。門には番兵が立つので我が家は守られるが、近所は荒らされる。食後に一しきりダンスをして、聞こえるロシア民謡がなつかしかった。

街では暴行、略奪が多く、腕に時計を十個もはめていた兵士もいた。少しづつ治安が良くなる、街頭に露店を並べ、日本人が売り食いをしていた。

あおい俳壇・歌壇

けるけると 遠き日想う 恋蛙
大根煮 思い出多し 母の味
桑原 将晴
応援の 汗の結晶 ホームラン
門入りて 止むこと知らぬ 走り梅雨
相田 美代子
唯一来る訪問客の野良猫は
物もふはずに飼喰めば去る
希望持つ心に響く鐘の音は
徐々に高鳴りやがて揺がる
河西 千恵子

北満から逃げて来た二十人位の人達が一月ほど泊まっていた。ソ連軍が帰ると八路軍が入り、次に国軍が来てその度に、一騒動があった。冬近く父も帰宅したが、それから三回連行された。突然兵士が来て、全員の身体検査、家宅搜索。十人位で銃を突きつけ、トラックの中に連れて行かれた。その度に最後の別れかと覚悟した。外部との情報が全く途絶えていたが、学友、知人など、家族の犠牲になって中国人や兵士と結婚させられた人もいた。将校は米国の大学出身でインテリだった。両親を「オトサン」「オカサン」と呼び「人間は平等だ」と身の上話をしたり、やさしかった。引揚時にコロ島でコレラ患者が出て足止めになった私達に、沢山の食料や菓を

自画像
キッチン 佐藤真利子



はじめまして、佐藤真利子と申します。沖縄を故郷にもち、早いもので大泉に住んで三十一年目を迎えました。六月に娘が結婚し、もうすぐ夫と二人の生活になります。食とは人を良くすると書きます。感謝を忘れず、頑張っていきます。よろしくお願ひします。